

専修以外の発展科目

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日 講時
博物館概論	博物館の使命と学芸員の 仕事	2	芳野 明	5	集中講義
博物館経営論	博物館経営論	2	高橋 修	5	集中講義
博物館資料論	博物館の資料・標本の特性	2	藤澤 敦	6	金曜1限
博物館資料保存論	博物館資料保存の方法と 実務	2	水澤 教子	6	集中講義
博物館展示論	博物館展示の理論と実践	2	水澤 教子	6	集中講義
博物館情報・メディア論	博物館における情報・メ ディア活用の現在	2	大島 幸代	5	集中講義
博物館実習Ⅱ	史料整理・保存の理論と 方法	2	籠橋 俊光	5	金曜4限 金曜5限
博物館実習Ⅲ	考古学資料分析法(2)	2	鹿又 喜隆	6	水曜3限 水曜4限
博物館実習Ⅳ	美術作品の取り扱いと実 践	2	杉本 欣久	5	火曜3限 火曜4限
博物館実習Ⅴ	美術作品分析入門:構図 から細部までをいかに観 察し記述するか	2	足達 薫	5	火曜3限 火曜4限
博物館実習Ⅵ	館園実習	1	藤澤 敦	6	集中講義
地理学B	地理情報科学を導入した 地理教育	2	磯田 弦	6	木曜1限
地誌学	都市社会の諸相・諸課題	2	小田 隆史	6	金曜1限
キリスト教史	キリスト教の歴史と課題	2	宮崎 正美	5	金曜2限
書道	書表現の基礎(一)(漢字)	2	下田 真奈美	5	木曜4限
書道	書表現の基礎(二)(かな)	2	下田 真奈美	6	木曜4限

専修以外の発展科目

日本語論文作成法Ⅰ	アカデミックライティングの基礎	2	高橋 亜紀子	5	火曜2限
日本語論文作成法Ⅱ	アカデミックライティングの書き方	2	高橋 亜紀子	6	火曜2限
日本語理解表現Ⅰ	読解力と口頭表現能力の改善	2	小河原 義朗	5	火曜5限
日本語理解表現Ⅱ	読解力と口頭表現能力の改善	2	小河原 義朗	6	火曜5限
日本語口頭表現Ⅰ	プレゼンテーションの日本語	2	島崎 薫	5	水曜2限
日本語口頭表現Ⅱ	プレゼンテーションスキルを伸ばす	2	島崎 薫	6	水曜2限
日本語・日本文化論各論Ⅰ	Japanese Popular and Consumer Culture from Edo to the 1930s	2	KOPYLOVA OLGA	5	木曜4限
日本語・日本文化論各論Ⅱ	Japanese Popular and Consumer Culture from WWII to the late 20th Century	2	KOPYLOVA OLGA	6	木曜4限
人文社会科学総合	死生学文献講読	2	高橋 原	5	水曜3限
人文社会科学総合	研究と実践の倫理	2	原 塑	5	水曜5限
人文社会科学総合	The Otaku Culture: Media, Industries, and Fandom ①	2	KOPYLOVA OLGA	5	金曜3限
人文社会科学総合	実践宗教学試論～宗教者によるケア実践	2	高橋 原	6	水曜5限
人文社会科学総合	The Otaku Culture: Media, Industries, and Fandom ②	2	KOPYLOVA OLGA	6	金曜3限
人文社会科学総合	死とともに生きることを学ぶ	2	竹之内 裕文	5	集中講義

科目名：博物館概論

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：芳野 明

コード：LB98814, 科目ナンバリング：LHM-CUM301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：博物館の使命と学芸員の仕事

2・授業の目的と概要：博物館の誕生とその歴史、博物館の目的や機能、その業務内容など、博物館に関する基本的事項と、博物館に関する基礎的概念を学ぶ。わたしたちはともすると博物館にはニュートラルな良質のモノが集積されていると思いがちだが、実際にはさまざまな角度からの眼差しが反映されている。この講義では、そうした態度を持って博物館を一から眺め直すことを試みる。また、他の省令科目の基礎となることがらも学ぶ。スライドを用いて講義形式で進行するが、対話形式をとる場合もある。また、近隣の博物館の実地見学も行う。

3. 学習の到達目標：博物館の本質的機能とその社会的存在意義を理解し、これらからの博物館活動を考え、実践するうえで必要な基礎知識を修得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス、博物館学とは
2. 博物館の様態
3. 欧米の博物館の歴史 I ―収集の欲望―
4. 欧米の博物館の歴史 II ―公開への欲望―
5. 日本の博物館の歴史 I ―博覧会から博物館へ―
6. 日本の博物館の歴史 II ―戦後の博物館―
7. 博物館と法律
8. 博物館の仕事 I ―博物館の目的と機能、博物館の組織と事業―
9. 展覧会を考える
10. 博物館見学
11. 博物館見学
12. 博物館の経営と情報
13. 博物館制度の展望
14. 博物館の限界とリベンジ
15. まとめ ―博物館とは、学芸員とは―

5. 成績評価方法：授業への取り組み姿勢とレポートにより総合的評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。プリント配布または参考図書を適宜示す。

7. 授業時間外学習：多くの博物館のウェブサイトを開覧し、また身近な博物館を訪れて案内リーフレットや展示案内、事業案内（参加募集チラシ）等入手し、すくなくとも利用者として博物館を理解しておくこと。特別展（企画展）や常設展を観覧して、展示テーマや構成方法、設備等と観覧者の反応を観察しておくこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

1993-1999 宮城県美術館学芸員

2007- 京都嵯峨芸術大学（現嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学）附属博物館学芸員

2014-2019 嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学附属博物館館長

2015- 京都・大学ミュージアム連携運営委員

2023- 嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学附属博物館館長

2024- 京都・大学ミュージアム連携運営委員長

9. その他：

科目名：博物館経営論

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：高橋 修

コード：LB98815, 科目ナンバリング：LHM-CUM302J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：博物館経営論

2・授業の目的と概要：博物館の活動は資料の研究、収集・保存、展示、普及交流事業といった基本的な活動に加え、地域振興、NPO やボランティア等の市民団体との連携、博物館評価など、その事業内容は多面化しつつあります。これら事業同士を結び付け、発展させていくために、あらためて博物館経営の在り方が問われています。博物館経営の現状と課題についての諸問題を学びます。

3. 学習の到達目標：1：博物館経営の基本的な仕組みを理解する。

2：社会と博物館との関係の築き方について、博物館経営の視点からその現状と課題について理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ガイダンス

第2回 博物館の使命と事業体系

第3回 博物館評価の仕組み

第4回 博物館のアメニティ ミュージアムショップとミュージアムレストランを中心に

第5回 博物館経営の中における組織・人員の在り方

第6回 博物館経営における集客と広報

第7回 博物館の運営形態

第8回 博物館の財政

第9回 博物館経営における市民参画

第10回 博物館経営と市民団体とのネットワーク

第11回 博物館同士のネットワーク

第12回 博物館行政

第13回 博物館と地域活性化

第14回 博物館の危機管理

第15回 まとめ 博物館経営の課題

5. 成績評価方法：平常点(30%)、小レポート(30%)、試験(40%)

平常点は授業への参加状況、小レポートの提出状況等から総合的に判断をします。

6. 教科書および参考書：参考書：大堀・水嶋編『博物館学 III 博物館情報・メディア論*博物館経営論』（学文社、2012 年）
水嶋・高橋・山下編『ミュージアムABCシリーズ ビジュアル博物館学 Basic』（人間洞、2022 年）

7. 授業時間外学習：1：できるだけ様々な博物館を訪問し、運営の在り様について比較検討しながら、それぞれの館の個性を把握するよう努めてください。

2：博物館で刊行されている要覧・年報などの文献を読み、それぞれの館の運営の現状について把握するよう努めてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

Google Classroom にて授業資料等を送付しますので、それを介して質問等を受け付けます。

科目名：博物館資料論

曜日・講時：金曜 1 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：藤澤 敦

コード：LB65101, **科目ナンバリング：**LHM-CUM303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：博物館資料・標本の特性

2・授業の目的と概要：博物館学芸員資格取得のために必要となる授業です。博物館の資料・標本には、多様な分野のものがあり、それぞれで特性が異なっている。その特性の違いに応じて、資料の収集と整理保管等の取り扱いの考え方や方法、調査研究の方法も異なっている。本講義では、地学・考古学・美術史学等の各分野の資料標本について、4 人の教員が各専門分野から、博物館資料としての特性を講義する。

3. 学習の到達目標：博物館資料の多様性について理解する。博物館の資料としての、地学・考古学・美術史学等の各分野の資料標本の特性について理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 講義の概要と進め方の説明および導入
2. 博物館法における博物館資料
3. 考古学資料の種類と特質
4. 考古学資料の収集と管理
5. 東北大学所蔵の考古学資料
6. 地学資料について（1）
7. 地学資料について（2）
8. 地学資料について（3）
9. 地学資料について（4）
10. 美術資料研究の歴史（1）
11. 美術資料研究の歴史（2）
12. 美術資料研究
13. 東日本大震災と博物館資料
14. 拡がる博物館資料
15. まとめ

5. 成績評価方法：出席と小レポートを合わせて合的に評価する。

6. 教科書および参考書：References are handed out as necessary.

7. 授業時間外学習：前回の授業内容を踏まえて次の授業が進行するので、前回の授業内容の確認を行うこと。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

科目名：博物館資料保存論

曜日・講時：集中講義

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：水澤 教子

コード：LB98825, 科目ナンバリング：LHM-CUM304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：博物館資料保存の方法と実務

2・授業の目的と概要：博物館における資料保存の学史を通してその意義を理解する。また、博物館資料について素材別に適切な保存を行うための知識を身につけ、その方法と技術を学ぶ。さらに守り伝えられた資料によって広がる世界を実感し、調査研究や普及公開への道筋を把握する。特に歴史資料に関し、事前の科学分析、脆弱遺物を対象にした手仕事での保存処理、優先順位をつけての修復、保管方法と保管環境への配慮、展示という学芸員の一連の取り組みの例示や、作業におけるエピソードを通じて、資料保存に対する博物館学芸員としての基本的な知識や技術と特に留意すべき点を、具体的かつ実践的に修得する。

3. 学習の到達目標：博物館における資料ならびにその展示環境、収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための基礎的知識の修得をめざし、あわせて資料保存のための能力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：ハイブリッドで行います。

1. 「資料保存の哲学」：博物館学における資料保存論の位置づけと博物館で資料を保存する意義を理解する。
2. 「博物館資料としての文化財」：博物館資料と文化財の定義と内容をジャンル別に把握する。文化財の体系と文化財保護法、エコミュージアムや自然環境の保護への取り組みの状況を理解する。
3. 「資料保存の学史と災害対策」：資料保存の学史を、博物館の設立、各種法律の制定、学問としての保存科学の発展の3側面から学ぶ。また、各種災害への対策を実例を通して理解する。
4. 「資料保存の諸条件」：資料劣化の原因となる温湿度、光、室内汚染について、その現状と対策の具体的な方法を、博物館における事例から学ぶ。
5. 「くん蒸とIPM」：博物館における生物被害の実態を整理し、ガスくん蒸とその方法並びに環境上の影響からここ10年の中で導入されたIPMの具体的な方法と今後の可能性について学ぶ。
6. 「資料の梱包と安全な輸送」：資料を安全に運搬するための形態別・素材別梱包方法を会得する。輸送のための留意点や、立ち会いの方法等について学習する。
7. 「金属製品の状態調査」：金属製品の構造や劣化状態の調査方法として主にX線透過撮影、分析SEMによる元素分析を取り上げる。分析機器の原理、構造調査等の方法、またその結果確認できる歴史的事実、そしてそれを公開する方法と意義について整理する。
8. 「展示室の環境と資料保存」：博物館を訪問して展示室と収蔵庫の環境保全の工夫について具体的に見学し、理解を深める。
9. 「保存科学と修理」：博物館の機器を用いての、保存処理と修理の実践的な方法について具体的に見学し、より深く学習する。
10. 「地域資源の保護と活用」：有形文化財のうち建造物、並びに史跡、名勝、天然記念物の保護の歴史を学び、その必要や活用の方向性を考察する。
11. 「無機質遺物の保存科学」：土器・石器・金属器・ガラス等の出土時の応急処置方法及び恒久的な保存処理方法、博物館で劣化が発生した場合の処置方法についての詳細、さらに保存処理が完了した資料を取り扱う場合の注意点を整理する。
12. 「木製品の科学的調査」：資料の保存処理の事前分析として科学的調査が必要である。特に木質遺物や漆紙文書の赤外線調査は歴史的な情報の抽出方法としても重要であり、その原理と技術、具体的な事例を取り上げ、実例をもとに解説する。
13. 「木製品の保存科学」：木製品・種実類・漆製品など有機質遺物の保存処理方法を具体的に紹介し、保存処理が完了した博物館資料に劣化が起こった場合の処置方法や、劣化を引き起こさないための資料の取り扱い上の注意点、保管方法を整理する。
14. 「土器・土製品の理化学分析」：土器の胎土分析は、素材調査と考古資料としての産地推定の両方の目的をもっている。本講では砂の光学顕微鏡分析と粘土の化学組成分析を組み合わせる実践される方法を詳細に解説し、博物館での具体的な分析・展示事例として紹介する。
15. 「文化財を未来へ伝える意義の確認と試験」：博物館における資料保存の意義を理解する。

5. 成績評価方法：筆記試験 [40%]・出席 [60%]

6. 教科書および参考書：プリント資料を随時配布する。また参考文献について講義中に指示する。

7. 授業時間外学習：予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として木製品、金属製品などを展示している博物館を訪問し、資料の状態や展示の方法等授業で学んだ点に留意して確認してみる。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業

9. その他：

科目名：博物館展示論

曜日・講時：集中講義

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：水澤 教子

コード：LB98826, 科目ナンバリング：LHM-CUM305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：博物館展示の理論と実践

2・授業の目的と概要：展示は、博物館が収集・整理・保存して蓄積した資料を学際的な領域から調査研究して情報を引き出し、学術的かつ教育的な配慮のもとに、一般に広く公開することであり、博物館活動の要である。そして展示に込めた学芸員や博物館のメッセージは学術的にも社会的にも恩恵を与えるものでなければならない。本科目では、様々な展示の形態や歴史を知るとともに、展示の理論や方法論を把握し、さらに資料から展示を組み立てるにあたっての具体的な技術を修得することを目的とする。また、展示そのものの以外にも展示を構成する博物館での様々な取り組みを、実践例をもとに具体的に整理しながら紹介し、自主的に考え、実践できるような能力を養成する。

3. 学習の到達目標：展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を修得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：ハイブリッドで行います。

1. 「博物館と展示」：博物館の分類・種類を確認し、それぞれの意義や役割どのような展示が行われてきたかを事例をもとに概観する。特に総合博物館、自然史博物館、歴史博物館、美術館の代表例を取り上げる。
2. 「展示と展示論の歴史」：ディスプレイとしての展示と展示論の学史を具体例を参考にしながら学ぶ。また日本の博物館の歴史を展示の視点から整理するとともに、明治時代以来展示の目的と理念がどのように考えられ説明されてきたかを概観する。
3. 「展示の諸形態」：展示の形態に関して、展示意図の有無、提示型と説示型、見学者の参加の有無、学術的な視座など12種類の分類について学ぶ。さらに第一、第二、第三世代の展示の進化形態を実例に即して整理する。
4. 「展示の政治性と社会性」：博物館の展示が社会教育、生涯教育と深く関係する事例として、第一に戦争と展示、第二に民族と展示を具体的に挙げて解説する。
5. 「展示の製作」：展示の構想、基本設計、実施設計から完成までの流れを把握する。タイトル、期間設定、資料選定、動線・視線といった展示の基本的な事項と、実際の作業工程管理の重要性について認識を深める。
6. 「展示の実務」：展示ケース、各種演示具など展示のための設備や造形物（模型、複製、ジオラマ）についてその分類や特徴を捉える。また、情報の伝達装置として解説パネル、キャプションの製作方法や、より効果的に見せるための調光方法について整理する。
7. 「展示解説Ⅰーパネルとグラフィック」：文字パネルによる文章解説や音声解説、画像を重視したグラフィックパネルや機器による解説について整理する。また、来館者に対するよりよい解説方法について学習する。
8. 「展示解説Ⅱー展示図録」：展示図録の意義をおさえ、その作成プロセスと印刷方法、メディアの使用方法、校正の流れ等を具体的に講義するとともに、最近の展示図録のうち代表的な事例を紹介する。また、指定文化財の掲載公開に関する注意点についても触れる。
9. 「展示解説Ⅲー人による解説」：学芸員による口頭での解説の種類を知り、より効果的な解説を行うための注意点を抑え、具体的な解説事例から学ぶ。また、ミュージアムワークシートの活用方法やその意義を捉える。
10. 「展示の評価と改善更新」：博物館評価について、博物館が主体的に実施する自己評価、外部評価、第三者評価、そして博物館の設置者が行う評価について、具体例を交えて解説する。
11. 「展示環境と動線計画」：具体的に展示を見ながら来館者の動きと動線の関係、照明の使用法を確認する。展示物により興味を持たせるためのワークシートやアンケートを作成し、学芸員の活動を実体験する。
12. 「資料整理と展示」：アーカイブスの整理方法と展示方法に関する具体例を見学し、より分かり易く知的欲求を満たす展示について考察を深める。
13. 「調査研究の成果としての展示」：資料を調査・研究し、そこから引き出された事実を蓄積して展示を構築していく説示型展示の具体的実践例を紹介。展示の役割と重要性、市民への還元の様相を把握する。
14. 「コミュニケーションとしての展示」：展示への理解をより深めてもらうための具体的な取り組みの工夫、来館者とのコミュニケーションの実践例について学習する。
15. 「展示の意義および試験」：博物館における展示の意義を理解する。

5. 成績評価方法：筆記試験 [40%]・出席 [60%]

6. 教科書および参考書：プリント資料を随時配布する。また参考文献については講義中に指示する。

7. 授業時間外学習：予習として事前に可能な範囲で博物館や美術館を訪問し、自分なりの博物館のイメージを作る。復習として授業で学んだ点を博物館を訪問して確認してみる。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

主として実践的教育から構成される実務・実践的授業

9. その他：

科目名：博物館情報・メディア論

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：大島 幸代

コード：LB98816, **科目ナンバリング：**LHM-CUM306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：博物館における情報・メディア活用の現在

2・授業の目的と概要：新型コロナウイルス感染症の流行を契機に、情報通信技術（ICT）は飛躍的な進化を遂げ、生活スタイルも大きく変貌するなか、資料の収集・保管・活用を使命とする博物館もまた、そのあり方に変化を求められている。なかでも博物館が生成し発信する情報やメディアは重要度を増し、効果的な活用方法が日々模索されている。この授業は、博物館の多種多様な情報とメディアを知り、その意義を考え、情報を集積・管理・活用していくための基本的な知識や方法を学ぶことを目的とする。情報を受信する側の視点を持ちつつ発信する側の課題等を理解するために、展覧会情報の発信についてワークショップ形式の授業も実施する。

3. 学習の到達目標：・現在の博物館における情報とメディアの重要性を知り、直面している課題等を説明することができる。

・博物館に求められている情報発信のあり方について、問題意識を持って考えることができる。

・博物館の情報とメディアを活用する基礎的な能力を身に着けることができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス 情報とメディア
- 2 資料のメタデータとドキュメンテーション
- 3 資料情報の記録の歴史
- 4 資料情報の公開
- 5 展示の類型と情報の階層
- 6 メディアの多様化と知的財産権
- 7 展覧会というメディアと階層構造
- 8 ワークショップⅠ モノコンペ
- 8 ワークショップⅠ モノコンペ
- 9 ユニバーサルデザインと博物館
- 10 ワークショップⅡ ストーリーを届けるために
- 11 ワークショップⅡ ストーリーを届けるために
- 12 ワークショップⅡ ストーリーを届けるために
- 13 プレゼンテーションと講評 1
- 14 プレゼンテーションと講評 2
- 15 プレゼンテーションと講評 3

5. 成績評価方法：出席状況とワークの取り組み状況（20%）、ワークショップⅠに伴うレポート（30%）、ワークショップⅡに伴うプレゼンテーション（50%）から総合的に評価する。

6. 教科書および参考書：講義のなかで適宜紹介する。

7. 授業時間外学習：興味のある博物館のインターネット上に公開されている情報を閲覧しておくこと。特に、データベースやデジタルアーカイブ等を閲覧・検索してみること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

科目名：博物館実習Ⅱ

曜日・講時：金曜 4 限、金曜 5 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：籠橋 俊光

コード：LB55407, 科目ナンバリング：LHM-CUM307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：史料整理・保存の理論と方法

2・授業の目的と概要：この講義は主に歴史系博物館における古文書・歴史資料の取り扱いを念頭に置き、アーカイブズ学的観点から学んでいく。歴史学は、史料の内容を理解することに大きな比重を置く学問であるが、その一方で史料はモノとしての側面も持っている。モノとして伝来してきた史料を、歴史学の素材として、あるいは文字・画像の情報としてだけではなく、史料そのものを永く保存し、人類共有の文化遺産として後世に伝えなければならない。そのためには史料＝アーカイブズの特質や史料群の構造・伝来などを深く理解し、史料そのものを正しく取り扱い、適切に保存していく理論と方法を学ぶ必要がある。この講義では、史料の保存・活用のための学問であるアーカイブズ学についてその基礎を学ぶ。さらにそれをもとにして、博物館・図書館などとの機能の相違や、実物史料の取り扱い方、史料の撮影や目録編成の理論などについて学んでいく。なお、受講に際し、相当の古文書読解能力が必要となるので、事前に古文書学あるいは古文書関係の講義等を受講していることが望ましい。また、実物の史料に触れることがあるので、特に丁寧な取り扱いを心がけてほしい。

3. 学習の到達目標：史料保存の意義と理論・方法について理解し、史料の調査・整理・保存に関する基礎的知識を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本講義は原則として対面で実施するが、講義形式の授業のみ場合によりオンライン受講を認める。

1. ガイダンス・史料保存の意義と意味 (1)
2. 史料保存の意義と意味 (2)
3. 文書館・図書館・博物館-史料保存機関の性格と特色-
4. アーカイブズの理論(1)
5. アーカイブズの理論(2)
6. 史料調査・整理の実際
7. 目録論
8. 目録作成の技術 (1)
9. 目録作成の技術 (2)
10. 歴史資料の取り扱いとその実践
11. デジタルカメラの取り扱いと撮影の実際
12. フィールド実習
13. 史料整理の基礎 (1)
14. 史料整理の基礎 (2)
15. 史料整理の基礎 (3)

5. 成績評価方法：出席[20%]・受講態度[40%]・レポート[40%]

6. 教科書および参考書：随時プリントを配布する。参考書：安藤正人・大藤修『史料保存と文書館学』（吉川弘文館）。

7. 授業時間外学習：授業前・後に関係する論文等を読み、認識を深める。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

○

9. その他：

本講義の理論・技術をもとにした実践的な訓練を積むために、可能な限り日本史実習・史料管理学Ⅱ「史料整理実習」（後期開講）と連続して受講すること。オフィスアワー 火曜日 16:20～17:50（要予約）
主として実践的教育から構成される実務・実践的授業/Practical business

科目名：博物館実習Ⅲ

曜日・講時：水曜 3 限、水曜 4 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：鹿又 喜隆、松本 圭太

コード：LB63311, **科目ナンバリング：**LHM-CUM308J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：博物館の調査と資料分析

2・授業の目的と概要：実際の遺跡発掘調査による資料の博物学的な整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり

3. 学習の到達目標：(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目（博物館学実習Ⅲ）は、対面講義です。

授業計画

1. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (1)。
2. 発掘調査で出土した資料と図面類の整理 (2)。
3. 遺物の観察・記録と図化 (1)。
4. 遺物の観察・記録と図化 (2)。
5. 遺物の観察・記録と図化 (3)。
6. 遺物の観察・記録と図化 (4)。
7. 製図・トレース・レイアウトの作成 (1)。
8. 製図・トレース・レイアウトの作成 (2)。
9. 製図・トレース・レイアウトの作成 (3)。
10. 写真撮影 (1)。
11. 写真撮影 (2)。
12. 写真撮影 (3)。
13. 保存処理に関する研修。
14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (1)。
15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集作業 (2)。

5. 成績評価方法：レポート [30%]・出席 [40%]・受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み [30%]

6. 教科書および参考書：教室にて指示。

7. 授業時間外学習：夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

実務・実践的授業

9. その他：

15 回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。

科目名：博物館実習Ⅳ

曜日・講時：火曜 3 限、火曜 4 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：杉本 欣久

コード：LB52309, **科目ナンバリング：**LHM-CUM309J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：美術作品の取り扱いと実践

2・授業の目的と概要：素材の異なる美術作品の理解、作品の取り扱いと調査に関する基礎的な技術、展示方法の理論を理解するため、授業は以下の内容で進める。

1. 美術作品の取り扱いと調査の仕方
2. 展示についての考え方と実践
3. 美術作品についての発表

3. 学習の到達目標：美術の取り扱い、調査、展示についての基礎的な技術を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は「対面授業」です。

ただし、Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ガイダンス
2. 学芸員になるために 一博物館の実状と学芸員という仕事一
3. 「折本」「冊子」「卷子」の基礎と取り扱い
4. 「掛軸」の基礎と取り扱い 1
5. 「掛軸」の基礎と取り扱い 2
6. 「屏風」の基礎と取り扱い 1
7. 「屏風」の基礎と取り扱い 2
8. 篆書(ハンコ)を読む
9. 「刀剣」の基礎と取り扱い
10. 「刀装具」「和鏡」の基礎と取り扱い
11. 「仏像」の基礎と取り扱い
12. カメラの撮影と画像の使用
13. 箱の扱いと紐結び・工芸品の展示
14. 博物館・美術館見学
15. 取り扱い復習

5. 成績評価方法：出席 [80%]・授業態度 [20%]

6. 教科書および参考書：資料はその都度配布する。

7. 授業時間外学習：展覧会などに積極的に出向き、作品を実際に見ることに努める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

○

9. その他：

4セメ(後期)の「東洋・日本美術史基礎実習」もあわせて履修することが望ましい。

実際の作品を扱うため、それなりの緊張感を持って臨むこと。

基本的にグループ学習であることから、人とのコミュニケーションが必要となる。

科目名：博物館実習Ⅴ

曜日・講時：火曜 3 限、火曜 4 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：足達 薫

コード：LB52310, **科目ナンバリング：**LHM-CUM310J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：美術作品分析入門：構図から細部までをいかに観察し記述するか

2・授業の目的と概要：美術作品を視覚的に分析し、言語化するための手順と観点、およびインターネットおよび文献資料を通じて作品の画像資料および基本的データを収集する方法を習得する。

3. 学習の到達目標：美術作品の視覚的分析、資料調査、カタログ記述を自ら行う力を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1：美術作品の視覚的分析ー目的と目標

2：客観的なことばを目指して

3：フォーマット

4：構図

5：空間

6：色彩

7：明暗

8：線

9：モデリング

10：人物像

12：見学会（場所、展覧会等は未定）

13：作品研究ポスターの制作（1）作品の選定

14：作品研究ポスターの制作（2）中間発表

15：作品研究ポスターの発表

（見学会の時期、集中講義の予定等により、内容の変更や休講がある場合があります）

5. 成績評価方法：出席、課題への準備、発表内容を総合して評価します。

6. 教科書および参考書：授業中に指示します。

7. 授業時間外学習：毎回の発表のための準備（情報調査、文章作成、スライド作成）および最終課題（ポスター作成）が必要となります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
該当する。

9. その他：

科目名：博物館実習VI

曜日・講時：集中講義

セメスター：6 **単位数：**1.00 単位

担当教員：藤澤 敦

コード：LB98827, **科目ナンバリング：**LHM-CUM311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：館園実習

2・授業の目的と概要：博物館学芸員資格取得のために必要となる授業です。博物館の資料・標本類について管理や展示などの作業方法を、本学に付設する植物園、史料館、自然史標本館において実習する。履修希望者の専攻分野に応じて、実習を行う館園を割り振り、より実践的な実習となるようにする。

3. 学習の到達目標：博物館における資料・標本類の管理や展示の実務作業を体験し習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業のみ

1. 全体での進め方の説明と担当館園の割り振り
2. 展示見学
3. 収蔵庫見学
4. 資料管理方法の体験（1）
5. 資料管理方法の体験（2）
6. 資料管理方法の体験（3）
7. 小グループによる展示案作成（1）
8. 小グループによる展示案作成（2）
9. 小グループによる展示案作成（3）
10. 小グループによる展示案作成（4）
11. 展示案の発表
12. 展示作成作業（1）
13. 展示作成作業（2）
14. 展示作成作業（3）
15. まとめと講評

5. 成績評価方法：出席（80%）、受講態度（20%）

6. 教科書および参考書：教科書は使用しない。必要な資料は適宜配布する。

7. 授業時間外学習：実習のため、前回授業の内容を踏まえて、次の授業での作業が進行する。前回の授業で行った作業を確認し、次の授業に備えること。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

○

9. その他：

科目名：地理学B

曜日・講時：木曜 1 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：磯田 弦

コード：LB64103, **科目ナンバリング：**LHM-GE0302J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：地理教育における地理情報の活用

2・授業の目的と概要：高校の新しい必修科目「地理総合」では、第1章で地理情報システム(GIS)が紹介され、その後の国際理解や国際協力および地域調査の教育において地理情報システムを活用することが求められている。この授業ではまず、地理情報システムとその学問的基盤である地理情報科学について概説したのち、学校教育において地理情報をどのように活用すべきかを考察する。また、国内の任意の地域について、自然環境および地域社会に関する地理情報を収集する方法を体得する。

3. 学習の到達目標：(1) GIS および地理情報科学がどのようなものかわかる
(2) GIS に関連した教材としてどのようなものがあるか知っている
(3) GIS を活用した自然地理学および人文地理学の授業・実習を構成できる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 近年求められている地理教育
2. 地理情報システムとは
3. 地理的な見方・考え方
4. 生活文化の多様性の理解のための理論
5. 生活文化の多様性の理解のためのオンライン教材
6. 地球的課題と国際協力のための理論
7. 地球的課題と国際協力のためのオンライン教材
8. 生活圏の自然地理学
9. 自然環境と防災に関する地理情報
10. 学生による発表
11. 生活圏の人文地理学
12. 生活圏の調査のための地理情報
13. 学生による発表
14. 予備日
15. まとめ

5. 成績評価方法：課題にもとづく（個人またはグループで、受講生数による）

6. 教科書および参考書：文部科学省「【地理歴史編】高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説」、平成30年
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2019/11/22/1407073_03_2_2.pdf
帝国書院「新詳高等地図」（高校で使用していた地図帳があればそれで結構です）
高校で地理を履修していない方は、いずれかの出版社の地理総合の教科書の購入をおすすめする。

7. 授業時間外学習：授業案を考案する課題が複数回課されるため、相応の授業時間外学修を必要とする。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：地誌学

曜日・講時：金曜 1 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小田 隆史

コード：LB65102, **科目ナンバリング：**LHM-GE0303J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：都市社会の諸相・諸課題

2・授業の目的と概要：地誌学の役割は人間の居住様式の多様性を地域性として説明するところにある。この授業では、日本、先進国、発展途上国の都市社会を事例に、グローバリゼーションの影響を受けながら諸都市が直面するローカル／グローバルな課題と、その解決に向けた取り組みやその効果について理解を深めることを目的とする。

3. 学習の到達目標：都市社会の諸相・諸課題に関する学習を通して地誌学的思考を身につけ、国内外の事例から、都市が直面する課題や解決に向けた取組などについての知識を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。

Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください

1. 地誌学とはー地誌と地域研究
2. 地理学と空間概念
3. 世界都市論
4. 先進国の都市化
5. 発展途上国の都市化
6. ローカルとグローバル～「時間・空間の圧縮」の諸相
7. 発展途上国のコミュニティ開発～災害復興と防災
8. アメリカ地誌概説～その 1
9. アメリカ地誌概説～その 2
10. インナーシティと都市における多重剥奪
11. 移民・難民・エスニック集団と空間
12. 越境する人々の地誌～その 1 難民の発生と再定住
13. 越境する人々の地誌～その 2 日系アメリカ人コミュニティ
14. 場所の記憶と地誌～震災体験のアーカイブ
15. 総括・振り返り・授業内テスト

5. 成績評価方法：課題 [60%] 及び期末レポート [40%] で評価する。

6. 教科書および参考書：教科書は指定しない。

授業に必要な資料は classroom で配布する。

7. 授業時間外学習：事前に要アポイントメント（連絡先メール等は授業内で周知）。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

受講生は「都市社会の諸相・諸課題」の未履修者のこと

科目名：キリスト教史

曜日・講時：金曜 2 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：宮崎 正美

コード：LB55211, 科目ナンバリング：LHM-HIS313J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：キリスト教の歴史と課題

2・授業の目的と概要： この講義では、キリスト教の歴史をキリスト者の霊性(つまり体験)の視点で概観し、今後の世界に向けて課題となるテーマについて考える。

そのために、キリスト教神学(西方キリスト教・東方キリスト教の主流派の神学)の基礎的思想を把握する。

特に、キリスト教の教義形成には東方キリスト教の歴史が大きく関わっているため、日本ではあまり紹介されない東方キリスト教

(おもにギリシャ正教)の特徴についても学ぶ。

また、キリスト者の生き方と体験については、キリスト教の宣教がその始めから全人類を対象としていたことから、非キリスト者を

含む人間についての理解(キリスト教的人間観)に基づいた人間学的考察を必要とする。

歴史の中のキリスト教ではなく、キリスト教における歴史に関連する問題を考える。

3. 学習の到達目標：キリスト教思想の中心を理解することをとおして、キリスト教の歴史を評価する基準・根拠について考察し、現代に対する影響と課題についてそれぞれの専門的関心との関連で研究できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション(1)本講義の目的・内容
 - ・歴史の記述の問題、歴史的存在としての人間が歴史を記述するということ
 - ・キリスト教の過去の記述、歴史の中のキリスト教
 - ・現代において我々が歴史を記述すること——時代を超える普遍的なものの追求
2. イントロダクション(2)方法論
 - ・「歴史を超えるもの」についての歴史的記述の問題
 - ・記述の立場と基準をどこにおくか——現代キリスト教神学の学術的役割
 - ・多様性と一致、〈自己〉と〈他者・他なるもの〉
3. キリスト教の発生とその周辺状況(1)
 - ・旧約聖書のエッセンス：出エジプト(解放)と律法
4. キリスト教の発生とその周辺状況(2)
 - ・イエスの福音はなぜ「良い知らせ」といえたのか
5. キリスト教の発生とその周辺状況(3)
 - ・「イエスとは何者か」という問い
6. キリスト教の発生とその周辺状況(4)
 - ・キリスト教の核心としてのイエスの復活と「神の愛」との関連
7. コンスタンティヌス体制以前までの古代キリスト教(1)
 - ・信条という文書の役割と教会
8. コンスタンティヌス体制以前までの古代キリスト教(2)
 - ・教会の制度化(宗教団体化)
9. コンスタンティヌス体制以前までの古代キリスト教(3)
 - ・キリスト教の迫害
 - ・修道の発生と発展
10. キリスト教基本教義の確立、教会の権威(1)
 - ・公会議によるキリスト両性論
11. キリスト教基本教義の確立、教会の権威(2)
 - ・キリスト両性論のキリスト教的意義
12. キリスト教基本教義の確立、教会の権威(3)
 - ・公会議による三位一体論
 - ・三位一体論と理解の試み
13. キリスト教基本教義の確立、教会の権威(4)
 - ・聖像(イコン)をめぐる問題
 - 物質存在と象徴性あるいは「ことば」性
14. まとめ(1) 「内在するキリスト」
15. まとめ(2) 歴史の中で存在することとキリスト教霊性

5. 成績評価方法：出席日数が総授業数の 2/3 以上の学生が評価の対象になります。出席状況(3 分の 2 の出席を単位取得の最低条件とし、残り 3 分の 1 を全体の 40%に換算)、レポート・試験(60%)、に基づいて評価する。(ただし比重は 平均点、アク

シデントの有無等により調整することがある。)

6. **教科書および参考書**：教科書：なし。教員が作成した PDF 資料を、Google Classroom の中で提供する。

7. **授業時間外学習**：指定したテキスト(プリント)の該当箇所を読んで、予習しておくこと。

8. **実務・実践的授業/Practical business**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. **その他**：

連絡先：paul-m◎tohoku.ac.jp

(◎を@に置き換えてください)

この講義は日本語で提供されます。

教科書としてプリントを配付する。

科目名：書道

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：下田 真奈美

コード：LB54401, 科目ナンバリング：LHM-0HU301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：書表現の基礎(一)(漢字)

2・授業の目的と概要：王羲之の用筆法による、楷書基本十点画を学ぶ。さらに、篆書、隸書、行書体を通じて、中国書道史の用筆法の変遷を学び、かつ書けるようにする。いずれも羊毛・長鋒を使用。

3. 学習の到達目標：中国伝統の用筆法に従って、五つの書体を書けるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

対面授業のみにより実施する。

1. オリエンテーション
2. 楷書の基本十点画 1(左はらい)
3. 楷書の基本十点画 2(点 1)
4. 楷書の基本十点画 3(よこ画)
5. 楷書の基本十点画 4(たて画)
6. 楷書の基本十点画 5(折れ)
7. 楷書の基本十点画 6(折れとはね)
8. 楷書の基本十点画 7(曲がりとはね)
9. 楷書の基本十点画 8(右はらい)
10. 楷書の基本十点画 9(点 2・点 3)
11. 基本十点画のまとめ
12. 篆書
13. 隸書
14. 草書
15. 創作

5. 成績評価方法：出席(毎時、清書提出)[100%]

6. 教科書および参考書：肉筆手本・五體字類等

7. 授業時間外学習：11. 「基本十点画のまとめ」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

適正に授業を行うために、受講生の上限を 50 名とする。希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。第一回の授業には必ず出席すること。

科目名：書道

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：下田 真奈美

コード：LB64402, 科目ナンバリング：LHM-0HU301J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：書表現の基礎(二)(かな)

2・授業の目的と概要：○ いろは単体から高野切第三種の臨書、倣書ができるようにする。
○ かな用小筆の執筆法・運筆法を、基礎から徹底して学習する。

3. 学習の到達目標：独力でかなの古典臨書ができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. かな用小筆の執筆法・運筆法
3. 基本練習といろは単体 1
4. いろは単体 2
5. いろは単体 3
6. いろは単体のまとめ
7. 変体仮名
8. 連綿
9. 高野切第三種の臨書 1
10. 高野切第三種の臨書 2
11. 高野切第三種の臨書 3
12. 高野切第三種の臨書 4
13. 高野切第三種の臨書 5
14. 高野切第三種の倣書(下書き)
15. 高野切第三種の倣書(清書)

5. 成績評価方法：出席(毎時、清書提出)[100%]

6. 教科書および参考書：肉筆手本・プリント・高野切三種(影印本)等。

7. 授業時間外学習：14.「高野切第三種の倣書(下書き)」、15.「高野切第三種の倣書(清書)」を授業時間内に提出できない時は、学習課題として提出してもらう。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

適正に授業を行うために、受講生の上限を 50 名とする。希望者がこの人数を超える場合は制限を設け、国語科教員免許取得希望者を優先する。第一回の授業には必ず出席すること。

科目名：日本語論文作成法 I

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LB52207, **科目ナンバリング：**LHM-0HU304J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：アカデミックライティングの基礎

2・授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を正確に、わかりやすく書けるようになることです。そのために、日本語で文章を書くときに必要な基礎的な知識、文法、表現などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

- 3. 学習の到達目標：**
- 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
 - 2 読み手にわかりやすく書く力をつける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 自己紹介文を書く
3. 自分の研究を紹介する
4. 書き言葉のルール
5. 過程を説明する
6. 定義を説明する①
7. 定義を説明する②
8. 分類・例示を説明する①
9. 分類・例示を説明する②
10. 比較・対照を説明する①
11. 比較・対照を説明する②
12. 原因・結果を説明する①
13. 原因・結果を説明する②
14. 全体のまとめ①
15. 全体のまとめ②

5. 成績評価方法：宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

6. 教科書および参考書：教科書はありません。授業のときに配布します。

参考書は『Good Writing へのパスポート』（くろしお出版）、『レポート・論文を書くための日本語文法』（くろしお出版）など

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語論文作成法Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：高橋 亜紀子

コード：LB62209, **科目ナンバリング：**LHM-0HU305J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：アカデミックライティングの書き方

2・授業の目的と概要：この授業の目的は、大学や大学院の学習に必要なレポートや論文を作成する手順にそって、レポートを完成させるまでのプロセスを学ぶことです。そのために、テーマの調べ方や資料の調べ方、文章の構成の仕方、引用の方法などを学びます。また、ペアやグループで相互にコメントし、レポートをよりよくする方法も学びます。

- 3. 学習の到達目標：**
- 1 文章を書くときに必要な表現やスキルを身に着ける
 - 2 読み手にわかりやすく書く力をつける
 - 3 レポートや論文を作成する方法を身に着ける

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. テーマを見つけよう・調べよう
3. 資料の探し方を知ろう
4. 資料を整理しよう・話し合おう
5. 資料を読んで整理しよう
6. テーマの絞り込みと定義の重要性を学ぼう
7. 定義の書き方を考えよう
8. 筆者の意図と構成を考えよう
9. タイトル・アウトラインを作成しよう
10. 引用方法や参考文献の書き方を学ぼう
11. レポートを書くときの表現を学ぼう
12. レポートを作成する前に確認しよう
13. ともだちのレポートを読んでフィードバックをしよう
14. フィードバックを読んで、よりよい文章に直そう
15. 自分のレポートを読んで、自分の成長をまとめよう

5. 成績評価方法：宿題 50%、出席及び受講態度 40%、最終レポート 10%

以上の割合で、総合的に判定する

6. 教科書および参考書：教科書はありません。授業のときに配布します。

参考書は『あしか：アイデアをもって社会について考える（レポート・論文編）』（ココ出版）、『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』（ひつじ書房）など

7. 授業時間外学習：ほぼ毎週、作文の宿題があります。授業では、宿題で書いてきた作文をペアやグループで読み合います。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語理解表現 I

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LB52507, **科目ナンバリング：**LHM-0HU312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善

2・授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。

- 3. 学習の到達目標：**
- 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる
 - 2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 再話活動(1)
3. 再話活動(2)
4. 再話活動(3)
5. 再話活動(4)
6. 再話活動(5)
7. 再話活動(6)
8. 中間テスト
9. 再話活動(7)
10. 再話活動(8)
11. 再話活動(9)
12. 再話活動(10)
13. 再話活動(11)
14. 再話活動(12)
15. 期末テスト

5. 成績評価方法：課題 25%、クイズ 25%、中間テスト 25%、期末テスト 25%
以上の割合で、総合的に判定する

6. 教科書および参考書：教科書はありません。授業のときに指示します。
参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など

7. 授業時間外学習：毎回、課題とクイズがあります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語理解表現Ⅱ

曜日・講時：火曜 5 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：小河原 義朗

コード：LB62506, **科目ナンバリング：**LHM-0HU312J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：読解力と口頭表現能力の改善

2・授業の目的と概要：読解活動は、読んだことから内容を再構築する過程です。そこでこの授業の目的は、あるまとまった文章を読んで理解したことを相手に話すことによって、読む力と話す力を伸ばします。そのため、授業では、ペアになって、読んだ内容を相手に伝えるという目的で読み、相手に話す活動を繰り返し行います。

- 3. 学習の到達目標：**
- 1 数文レベルから 600 字程度までのまとまった文章を読んで理解できる
 - 2 理解した内容を相手に適切に伝えることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 再話活動(1)
3. 再話活動(2)
4. 再話活動(3)
5. 再話活動(4)
6. 再話活動(5)
7. 再話活動(6)
8. 中間テスト
9. 再話活動(7)
10. 再話活動(8)
11. 再話活動(9)
12. 再話活動(10)
13. 再話活動(11)
14. 再話活動(12)
15. 期末テスト

5. 成績評価方法：課題 25%、クイズ 25%、中間テスト 25%、期末テスト 25%
以上の割合で、総合的に判定する

6. 教科書および参考書：教科書はありません。授業のときに指示します。
参考書は『初中級からの読解』（凡人社）、『新わくわく文法リスニング 100』（凡人社）など

7. 授業時間外学習：毎回、課題とクイズがあります。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

このクラスは外国人留学生のためのクラスです。

科目名：日本語口頭表現 I

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LB53210, **科目ナンバリング：**LHM-0HU313J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：日本語でやりとりする力を伸ばす

2・授業の目的と概要：道聞きや依頼など目的がある会話はできても、日常生活のさまざまなところで交わされる雑談が難しいと感じる日本語学習者は多い。この授業では、互いのことや経験、気持ちや思いを共有することで、互いを知り合い、尊重し合いながら関係性を築き上げられるような雑談ややりとりができることを目指す。

3. 学習の到達目標：①関係性の深まりや変化に合わせて、話題や使用する語彙・表現を使い分けられる

②雑談に必要なストラテジーやコツを理解し、使用することができる

③話題や場面に合った適切な話の展開の仕方を理解し、適切に話を発展させることができる

④自分のパフォーマンスについて客観的に振り返り、モニターすることができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 初対面での会話①
3. 初対面での会話②
4. 雑談の始め方、終わり方
5. 親しくなるきっかけをつくるための雑談①
6. 親しくなるきっかけをつくるための雑談②
7. 親しくなるきっかけをつくるための雑談③
8. 大学生が使う雑談のことば
9. もっと親しくなるための雑談①
10. もっと親しくなるための雑談②
11. 仲を深めるための雑談①
12. 仲を深めるための雑談②
13. もっと仲を深めるための雑談①
14. もっと仲を深めるための雑談②
15. まとめ

5. 成績評価方法：毎週の課題 50%

期末テスト（パフォーマンステスト） 50%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

この授業は日本語中上級レベル以上留学生向けの日本語の授業です。

科目名：日本語口頭表現Ⅱ

曜日・講時：水曜 2 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：島崎 薫

コード：LB63213, **科目ナンバリング：**LHM-0HU314J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：プレゼンテーションスキルを伸ばす

2・授業の目的と概要：この授業では、留学生が研究に関する報告や口頭発表を行う際に必要になる基礎的な知識やことば、表現、考え方を学びます。また口頭発表の方法だけではなく、発表スライドや質疑応答についても取り扱います。

3. 学習の到達目標：①口頭発表の流れを理解し、自分の研究についてわかりやすく発表することができる
②聴衆にとってわかりやすい発表スライドを作成することができる
③適切に質問やコメントを受け、回答することができる

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 プレゼンテーションとは
- 2 研究紹介①
- 3 研究紹介②
- 4 研究発表③
- 5 研究発表④
- 6 研究発表⑤
- 7 研究発表⑥
- 8 研究発表⑦
- 9 発表スライド①
- 10 発表スライド②
- 11 質疑応答①
- 12 質疑応答②
- 13 質疑応答③
- 14 最終発表①
- 15 最終発表②

5. 成績評価方法：毎週の課題 50%
最終課題（プレゼンテーション）50%

6. 教科書および参考書：特になし。担当教員作成 PPT 資料、配布資料を使用する。

7. 授業時間外学習：到達目標や授業内容に応じた予習・復習が求められます。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

この授業は日本語中上級レベル以上留学生向けの日本語の授業です。

科目名：日本語・日本文化論各論 I

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LB54402, **科目ナンバリング：**LHM-0HU308E, **使用言語：**使用言語は英語です（日本語での説明も可）

1. 授業題目：Japanese Popular and Consumer Culture from Edo to the 1930s

2・授業の目的と概要：本授業は江戸時代初期から 2000 年代までの期間に焦点を絞り、日本のポピュラー・カルチャーの進展を追っている。日本における創造生産の特徴、人気のあるコンテンツの種類及び典型的な消費パターンを紹介し、それを形成した要素を学生に考察させる。それによって日本のポピュラー・カルチャーの概要だけでなく、大衆文化の根本的な原理の理解が成立することが期待される。さらに、皆さんが講義と課題によって日本のポピュラー・カルチャーをめぐる研究と接触し、これから自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

3. 学習の到達目標：——江戸時代初期から 2000 年代にかけての日本の大衆文化の全貌を把握する。
——各々のメディア、ジャンル、また創造産業の登場と展開を裏付ける歴史的状況、技術、そして社会の相互作用を理解する。
——日本におけるメディアや消費活動などの特徴についての知識を活用し、世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを分析できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Course introduction; defining popular culture
2. Proto-popular culture in the Edo period I: Regular folk's entertainment
3. Proto-popular culture in the Edo period II: Performing arts 1
4. Proto-popular culture in the Edo period III: Performing arts 2
5. Proto-popular culture in the Edo period IV: Literacy + the blessing of woodblock printing
6. Proto-popular culture in the Edo period IV: Woodblock prints
7. Animated movie screening: Miss Hokusai (2015)
8. Proto-popular culture in the Edo period IV: Traveling for business and pleasure
9. Taishō period I: Urbanization, westernization, new consumer culture
10. Taishō period II: From stage to screen
11. Taishō period III: Shōjo culture, and Takarazuka Revue
12. From Taishō to Shōwa: Kamishibai
13. Popular culture and the supernatural I: From folk beliefs to entertainment
14. Popular culture and the supernatural II: from documented folklore to urban legends
15. Animated TV series screening: Mushishi (2005-06, 2014), Yamishibai (2013-)

（講義構成は変更することがあります）

(the lecture content may be subject to change)

5. 成績評価方法：成績評価は、次の方法と割合で行う：

出席 (20%)

課題 (80%)：テキストに基づく課題 50% + リアクションペーパー30%

課題は重要！

出席=1、遠隔での参加（特別の理由がない限り）=0.5

6. 教科書および参考書：No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

7. 授業時間外学習：1 週間に 3 時間程度の準備学習（予習・復習等）が必要となる。

復習①（1 時間程度）：ビデオ上映の後、リアクション・ペーパーを作成し提出すること

復習②（2-5 時間程度）：論文や一次資料に基づく課題

復習③（1 時間程度）：講義の後、スライドを再確認すること

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

You can also find me in my office (building C13, 827) on Mon. ~ Fri. 8:30 am-17.30 pm.

私の主な連絡先：

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

科目名：日本語・日本文化論各論Ⅱ

曜日・講時：木曜 4 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LB64403, 科目ナンバリング：LHM-0HU309E, 使用言語：使用言語は英語です（日本語での説明も可）

1. 授業題目：Japanese Popular and Consumer Culture from WWII to the late 20th Century

2・授業の目的と概要：本授業は江戸時代初期から 2000 年代までの期間に焦点を絞り、日本のポピュラー・カルチャーの進展を追っている。日本における創造生産の特徴、人気のあるコンテンツの種類及び典型的な消費パターンを紹介し、それを形成した要素を学生に考察させる。それによって日本のポピュラー・カルチャーの概要だけでなく、大衆文化の根本的な原理の理解が成立することが期待される。さらに、皆さんが講義と課題によって日本のポピュラー・カルチャーをめぐる研究と接触し、これから自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

3. 学習の到達目標：——江戸時代初期から 2000 年代にかけての日本の大衆文化の全貌を把握する。
——各々のメディア、ジャンル、また創造産業の登場と展開を裏付ける歴史的状況、技術、そして社会の相互作用を理解する。
——日本におけるメディアや消費活動などの特徴についての知識を活用し、世界中の大衆文化における傾向、また消費者と生産者の関係などを分析できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Course introduction; defining popular culture
2. WWII: Life and entertainment during the war, censorship, and propaganda
3. WWII aftermath: Japan during and after the occupation (reading assignment 1)
4. Animated movie screening: In This Corner of the World (2016) (reaction paper)
5. TV Era: The impact of TV on other media
6. Postwar anime: The legacy of Tetsuwan no Atomu (Astroboy) (reading assignment 2)
7. Special effects on screen: Kaijū movies and tokusatsu
8. Movie screening: Godzilla (1954) 96 min. (reaction paper)
9. The affluent 70s: The arrival of kawaii culture (creative assignment)
10. Social, political, ecological crises reflected in popular media
11. Animated TV series screening: Tokyo Magnitude 8.0 (2009) (reaction paper)
12. Opening the mountains: Hiking and mountain-climbing booms in Japan
13. Early history of game centers and video games in Japan
14. Mass media, press, and scandal in Japan (reading assignment 5)
15. Movie screening: シン・ゴジラ (2016) – till prime minister's death (reaction paper)

（講義構成は変更することがあります）

(the lecture content may be subject to change)

5. 成績評価方法：成績評価は、次の方法と割合で行う：

出席 (20%)

課題 (80%)：テキストに基づく課題 40% + リアクションペーパー40%

課題は重要！

出席=1、遠隔での参加（特別の理由がない限り）=0.5

6. 教科書および参考書：No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

7. 授業時間外学習：1 週間に 3 時間程度の準備学習（予習・復習等）が必要となる。

復習①（1 時間程度）：ビデオ上映の後、リアクション・ペーパーを作成し提出すること

復習②（2-5 時間程度）：論文や一次資料に基づく課題

復習③（1 時間程度）：講義の後、スライドを再確認すること

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

You can also find me in my office (building C13, 827) on Mon.~Fri. 8:30 am-17.30 pm.

私の主な連絡先：

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

科目名：人文社会科学総合

曜日・講時：水曜 3 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：高橋 原

コード：LB53310, **科目ナンバリング：**LHM-OHU311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：死生学文献講読

2・授業の目的と概要：死生観に関する英語文献を読み、生と死の諸問題についての基礎的な知識を得る。

3. 学習の到達目標：生と死の諸問題についての知識を自分の問題関心につなげる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

The Routledge Handbook of Death and Afterlife (Edited by Candi K. Cann, Routledge, 2018) をチャプターごとに読み進める。テキストの購入は必要ない。

学生は以下に示す目次から、毎回一章を選んで要約発表を行い、授業内でディスカッションを行なう。

Part I|39 pages The study of dying, death, and grief

Chapter 1|7 pages, Introduction By Candi K. Cann

Chapter 2|10 pages, State of the field of death in the United States By George E. Dickinson

Chapter 3|10 pages, Brain death and the politics of religion By Donald Joralemon

Part II|80 pages Disposal of the dead

Chapter 4|10 pages, Understanding grief

Theoretical perspectives 1 By Kenneth J. Doka

Chapter 5|17 pages, Symbolizing imperial affiliation in death

Case studies from the Inka empire (ad 1400-1532) By Colleen Zori

Chapter 6|12 pages, The Romanian Orthodox Church and issues of cremation 1 By Marius Rotar

Chapter 7|13 pages, Reframing sites of the dead in Brazil By Renato Cymbalista, Aline Silva Santos

Chapter 8|11 pages, Stand By me The fear of solitary death and the need for social bonds in contemporary Japan
By Chikako Ozawa-de Silva

Chapter 9|14 pages, Politics of death and mortuary rituals in Trinidadian Hinduism By Priyanka Ramlakhan

Chapter 10|11 pages, The right to be dead

Designing Future Cemeteries

By Jakob Borrits Sabra, John Troyer

Part III|71 pages

Representations of death

Chapter 11|13 pages, Post Mortem (2010)

Saint Salvador Allende and historical autopsy By Moisés Park

Chapter 12|17 pages, Mourning deaths and constructing afterlives in the Red Army at war By Steven G. Jug

Chapter 13|15 pages, Corpses that preach

Óscar Romero and the martyred priests of El Salvador By Mandy Rodgers-Gates

Chapter 14|15 pages, Photographing human finitude

Philosophical reflections on photographs of death By Mathew A. Crawford

Chapter 15|9 pages, De imago to word

The exile of the dead from parish symbolism in Reformation England By Lacy K. Crocker Papadakis

Part IV|36 pages Youth meets death

Chapter 16|13 pages, The comprehension of death and afterlife in children By Ramiro Tau

Chapter 17|11 pages, The effects of parental death on religiosity within an American context By Renae Wilkinson

Chapter 18|10 pages, Ashes to ashes

Continuing bonds in young adulthood in the Netherlands By Renske Visser

Chapter 19|9 pages, Exeunt

The question of suicide at the origin of early Christianity By Michael J. Thate

Chapter 20|22 pages, How not to become a ghost

Tales of female suicide martyrs in sixteenth-century Vietnamese ‘transmissions of marvels’ (truyện kỳ) By Cuong T. Mai

Chapter 21|15 pages, The cat came back’ Revenant pets and the paranormal everyday By Sara Knox

Chapter 22|14 pages, From ancestors to avatars from ancestors to avatars

Transfiguring the afterlife By Jenny Huberman

Part VI|102 pages Material corpses and imagined afterlives around the world

Chapter 23|9 pages, From the underworld of yama to the island of Gems

Concepts of afterlife in Hinduism By June McDaniel

Chapter 24|13 pages, A broad survey of zulu ancestor veneration and the challenges it faces zulu ancestor

vation, its challenges By Radikobo Ntsimane

Chapter 25|12 pages, Death and life in a pluralistic society death and life in a pluralistic society

Boundary-making and boundary-crossing in Sino-Burmese-Tibetan borderlands

By Keping Wu

Chapter 26|15 pages, Viking death

Pre-Christian rites of passage and funerary feasting By Davide M. Zori

Chapter 27|14 pages, Death, resurrection, and the world to come death, resurrection, and the world to come

Jewish views on death and the afterlife By Nicholas R. Werse

Chapter 28|10 pages, The afterlife and deathan islamic perspective

An Islamic perspective By David Oualaalou

Chapter 29|11 pages, Coffins, candles, and cameras aspects of brazilian funerals

Aspects of Brazilian funerals from the nineteenth to the twenty-first century By Andréia de Sousa Martins

Chapter 30|16 pages, Buying an afterlife buying an afterlife

Mapping religious beliefs through consumer death goods 1 By Candi K. Cann

下記サイトを参照

<https://www.taylorfrancis.com/books/edit/10.4324/9781315545349/routledge-handbook-death-afterlife-candi-cann>

5. 成績評価方法：出席回数と発表内容により総合に評価する。

6. 教科書および参考書：The Routledge Handbook of Death and Afterlife, edited by Candi K. Cann, Routledge, 2018

7. 授業時間外学習：事前にテキストを読んでおく。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

授業の進め方については、初回に出席者と相談して決めます。

科目名：人文社会科学総合

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：原 塑、阿部 恒之、浜田 宏、坂井 信之、辻本 昌弘、小泉 政利、中西 太郎

コード：LB53505, **科目ナンバリング：**LHM-0HU311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：研究と実践の倫理

2・授業の目的と概要：科学研究は、人々の幸福や社会の発展に大きく貢献していますが、他方、研究やその成果が、人々を傷つけるものであったり、人びとを誤った仕方で導いたりすることもあります。そのため、研究に従事する人々(大学生を含みます)は、倫理的・手続的に正しい仕方で行なう責任を負っています。特に、人文社会科学では、実験・質問紙調査・フィールドワーク・聞き取り調査・歴史資料・インターネット情報の収集など様々な手法で研究が行なわれるため、多様な倫理的問題に対処しなければなりません。この授業では、研究倫理と公正な研究に関する基礎を講義し、その上で、それぞれの研究手法に応じた倫理的問題とその問題への対処方法について複数教員が担当し、解説します。

3. 学習の到達目標：研究倫理と公正な研究について理解し、その理解に基づいて、研究を実践できるようになることが、この授業の到達目標です。より具体的な到達目標は以下の通りです。

1. よい研究者像を自分なりにイメージできるようになり、研究者の責任に対する自覚を深めること。
2. 実験・調査参加者や、その他の関係者の権利を尊重する必要性、そのために考慮すべき事項や手続きを理解し、その知識に基づいた研究活動を行なうこと。
3. 責任ある仕方で行なう研究を実施するために研究者が遵守すべき様々な規範と、その規範を遵守すべき理由を理解した上で、その規

4. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、オンライン、非同期授業(主としてオンデマンド型遠隔授業)として実施します。

授業内容は以下の通りです。

- 第1回:イントロダクション(担当:原塑)
- 第2回:人を対象とした医学系研究における倫理(担当:坂井信之)
- 第3回:心理学実験における倫理(担当:坂井信之)
- 第4回:質問紙調査研究の実践と倫理(担当:浜田宏)
- 第5回:研究倫理を踏まえた質問紙調査法改善の動向(担当:浜田宏)
- 第6回:フィールドワークにおける倫理の基本原則(担当:辻本昌弘)
- 第7回:フィールドワークにおける倫理の実践的問題(担当:辻本昌弘)
- 第8回:聞き取り調査の実践と倫理の諸問題(担当:中西太郎)
- 第9回:著作権・商標・特許等の問題について(担当:阿部恒之)
- 第10回:研究不正の防止と対応(担当:小泉政利)
- 第11回:人文学・社会科学分野における盗用(担当:原塑)
- 第12回:共同研究とオーサiership(担当:原塑)
- 第13回:ピア・レビューと利益相反(担当:原塑)
- 第14回:人文学・社会科学分野における研究の質と研究公正性との関係(担当:原塑)
- 第15回:人文学・社会科学の学問特性と研究不正(担当:原塑)

5. 成績評価方法：平常点 30%、e-ラーニングの受講 20%、レポート 50%

6. 教科書および参考書：指定された教科書はありません。参考書は授業時に教えます。

7. 授業時間外学習：講義内容について十分、復習を行ってください。授業内容について独自に調べ、理解を深めた上で、それをレポートとしてまとめていただきます。また、公正な研究について、e-ラーニングを受講する必要があります。e-ラーニングの受講方法については、初回の授業 で指示します。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：人文社会科学総合

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：5 **単位数：**2.00 単位

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LB55307, **科目ナンバリング：**LHM-0HU311J, **使用言語：**使用言語は英語です（日本語での説明も可）

1. 授業題目：The Otaku Culture: Media, Industries, and Fandom ①

2・授業の目的と概要：本授業は日本におけるポピュラー・カルチャーとファン・カルチャー（オタク文化）の相互関係を説明する。具体的に言えば、オタクの根本的な価値観、興味及び指向、そしてそれに応じたコンテンツの分類を解説した上で、創造産業と消費者の相互影響を明らかにする。各々の創造産業の事情と戦略、コンテンツと物語内容の関係性、表現メディアの特徴、ファン活動と消費パターンといった幅広いテーマが取り上げられ、受講者が様々なメディアやそれに関連するサブカルチャーの特徴について知ることができる。皆さんがこの授業によって自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

3. 学習の到達目標：——オタク市場に関わる主な表現メディアの歴史を把握し、メディアの生産、流布と消費の特徴、あるいはメディアの相互関係についての知識を有する。

——日本のオタク文化及びファンの消費行動の特徴、それに関連する主な概念を知り、他の国におけるファン・カルチャーとの共通点あるいは類似点を見いだせる。

——日本のポピュラー作品を多面的かつ包括的に解説し、様々な観点から評価できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Course introduction; what is 'otaku' ?
2. The many faces of otaku I: A history of fan practices in Japan
3. A brief history of fujoshi and BL
4. The many faces of otaku II: Fandom criticized from outside and within
5. Movie screening: Densha Otoko (The Train Man, 2005)
6. Different types of fan engagement and fan creativity
7. Different types of fan engagement and fan creativity. 2.5D culture
8. 2.5-jigen practices: 2.5 stage plays/musicals
9. 2.5-jigen practices: Anime (contents) tourism
10. Group presentations: Contents tourism plans and experiences
11. 2.5-jigen practices: Cosplay
12. 2.5-jigen practices: Voice acting in the Japanese popular media today
13. 2.5-jigen practices: The history of voice acting in the Japanese popular media
14. Game centers as sakariba
15. J-Horror: History, main themes and tropes of the genre
16. Movie screening: One Cut of The Dead (2017)

（講義構成は変更することがあります）

(the lecture content may be subject to change)

5. 成績評価方法：成績評価は、次の方法と割合で行う：

出席 (15%)、

課題(85%)： テキストに基づく課題 30% + リアクションペーパー30% + プレゼンテーション 10% + 期末課題 15%

課題は重要！

出席=1、遠隔での参加（特別の理由がない限り）=0.5

6. 教科書および参考書：No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

7. 授業時間外学習：1 週間に 3 時間程度の準備学習（予習・復習等）が必要となる。

復習①（1 時間程度）：ビデオ上映・講義の後リアクション・ペーパーを作成し提出すること

復習②（2-5 時間程度）：論文や一次資料に基づく課題

復習③（1 時間程度）：講義の後、スライドを再確認すること

予習（2-3 時間程度）：短いプレゼンテーションの作成

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

You can also find me in my office (building C13, 827) on Mon. ~Fri. 8:30 am-17.30 pm.

私の主な連絡先：

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

科目名：人文社会科学総合

曜日・講時：水曜 5 限

セメスター：6 単位数：2.00 単位

担当教員：高橋 原

コード：LB63505, 科目ナンバリング：LHM-0HU311J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：実践宗教学試論～宗教者によるケア実践

2. 授業の目的と概要：とりわけ「死」の周辺において宗教者が果たしてきたケアの役割について現場経験から学ぶ。

3. 学習の到達目標：さまざまな実践例から、宗教文化が死に直面した人々のケアに寄与してきたことを理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者(臨床宗教師)を招く回があります。 各回の内容は仮のもので、順序、担当講師の詳細は未定です。決定し次第、掲示等で告知します。

1. 臨床宗教師とは何か？(1)
2. 臨床宗教師とは何か？(2)
3. カフェ・デ・モンク(宗教者による被災地支援の実情)
4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
5. 終末期医療と宗教者
6. 臨床心理学と宗教
7. 民間信仰論
8. 宗教間対話
9. 臨床宗教師の実践報告(1)
10. 臨床宗教師の実践報告(2)
11. 臨床宗教師の実践報告(3)
12. 臨床宗教師の実践報告(4)
13. 臨床宗教師の実践報告(5)
14. 臨床宗教師の実践報告(6)
15. 臨床宗教師の実践報告(7)

5. 成績評価方法：毎回のミニットペーパーの内容と出席状況により判断する。

6. 教科書および参考書：特に指定しない。

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：人文社会科学総合

曜日・講時：金曜 3 限

セメスター：6 **単位数：**2.00 単位

担当教員：KOPYLOVA OLGA

コード：LB65307, **科目ナンバリング：**LHM-0HU311J, **使用言語：**使用言語は英語です（日本語での説明も可）

1. 授業題目：The Otaku Culture: Media, Industries, and Fandom ②

2・授業の目的と概要：本授業は日本におけるポピュラー・カルチャーとファン・カルチャー（オタク文化）の相互関係を説明する。具体的に言えば、オタクの根本的な価値観、興味及び指向、そしてそれに応じたコンテンツの分類を解説した上で、創造産業と消費者の相互影響を明らかにする。各々の創造産業の事情と戦略、コンテンツと物語内容の関係性、表現メディアの特徴、ファン活動と消費パターンといった幅広いテーマが取り上げられ、受講者が様々なメディアやそれに関連するサブカルチャーの特徴について知ることができる。皆さんがこの授業によって自分の研究において活用できる観点や考え方を見つけたらありがたいと思う。

3. 学習の到達目標：——オタク市場に関わる主な表現メディアの歴史を把握し、メディアの生産、流布と消費の特徴、あるいはメディアの相互関係についての知識を有する。

——日本のオタク文化及びファンの消費行動の特徴、それに関連する主な概念を知り、他の国におけるファン・カルチャーとの共通点あるいは類似点を見いだせる。

——日本のポピュラー作品を多面的かつ包括的に解説し、様々な観点から評価できる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Course introduction: popular media and otaku markets
2. What is media mix? Creative industries and transmedia franchises
3. A brief history of Japanese video games
4. Adventure novels and video games
5. Presentations: Introducing your favourite franchises
6. Idols, celebrities, and promotional agencies I: Tarento
7. Idols, celebrities, and promotional agencies II: Idols
8. Korean waves in Japan
9. Asian TV Drama: Translations, localizations, remakes
10. Anime industry: How anime is made
11. Anime industry today: Problems and changes
12. Animated TV series screening: Shirobako (2014-15)
13. Manga industry: Who is involved in manga production?
14. TV program screening: Manben: Behind the Scenes of Manga with Urasawa Naoki (2015-23)
15. Manga industry in the 21 century

（講義構成は変更することがあります）

（the lecture content may be subject to change）

5. 成績評価方法：成績評価は、次の方法と割合で行う：

出席（15%）

課題（85%）： テキストに基づく課題 30% + リアクションペーパー45% + プレゼンテーション 10%

課題は重要！

出席=1、遠隔での参加（特別の理由がない限り）=0.5

6. 教科書および参考書：No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

7. 授業時間外学習：1 週間に 3 時間程度の準備学習（予習・復習等）が必要となる。

復習①（1 時間程度）：ビデオ上映・講義の後リアクション・ペーパーを作成し提出すること

復習②（2-5 時間程度）：論文や一次資料に基づく課題

復習③（1 時間程度）：講義の後、スライドを再確認すること

予習（2-3 時間程度）：短いプレゼンテーションの作成

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

9. その他：

If you have any questions regarding the course, feel free to contact me via the following email:

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

You can also find me in my office (building C13, 827) on Mon. ~ Fri. 8:30 am-17.30 pm.

私の主な連絡先：

kopylova.olga.d4@tohoku.ac.jp

科目名：人文社会科学総合

曜日・講時：集中講義

セメスター：5 単位数：2.00 単位

担当教員：竹之内 裕文

コード：LB98817, 科目ナンバリング：LHM-0HU311J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：死とともに生きることを学ぶ

2・授業の目的と概要：なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという

現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。

3. 学習の到達目標：1 対話スタイルで進められる授業を通して、対話的探究の楽しさと可能性を味わい、対話のスピリットと技法を習得する。

2 テキストを読み、他の受講者や教員と対話することを通して、「死とともに生きる」自分なりの構えと知恵を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業では、すべての人間の共通課題である「死」と「死別」と正面から向き合い、他者とともにどのように生きるかについて、対話を通して共に探究する。授業は、1) 所定のテキストの各章(序章~終章)をめぐる9つの対話、2) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク、3) 重度障害者の自立生活に関する動画鑑賞により構成される。

- 1) ガイダンス:講義の目的と進め方、「対話」をめぐる試行の対話
- 2) ワールドカフェ ある死別の経験から(序章)
- 3) 映画『生かされて生きる』鑑賞
- 4) テキストをめぐる対話1 重度障害者自立ホームから(第1章)
- 5) テキストをめぐる対話2 在宅緩和ケアの現場から(第2章)
- 6) テキストをめぐる対話3 死者と共にある農村との出会い(第3章)
- 7) テキストをめぐる対話4 いのちにあずかって生き、死ぬ(第4章)
- 8) テキストをめぐる対話5 共に生きること、本当に生きること(第5章)
- 9) 10) 11) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク
- 12) テキストをめぐる対話6 森と湖の国の「福祉」(第6章)
- 13) テキストをめぐる対話7 ホスピス運動の源流を辿る(第7章)
- 14) テキストをめぐる対話8 死とともに生きることを学ぶ~哲学と対話(終章) 15) 授業全体のふり回り

5. 成績評価方法：ポイント制とします。試験やレポートはありません。

1. テキストをめぐるワールドカフェ/対話(全9回)の準備作業として、受講者は各回の授業冒頭にフィードバックシートを提出します。すべての設問にきちんと回答して、フィードバックシートをすべて提出すると、8点満点×9回=72点のポイントを獲得します。2. 全体対話での発言については、これを対話的探究への寄与と位置づけ、1回あたり3点を加算します。

6. 教科書および参考書：講義担当者の単著『死とともに生きることを学ぶ 哲学と対話』(ポラーノ出版 2019 ISBN: 978-4908765223)をテキストとして使用します。宗教学研究室にて割引価格で購入できるように手配します。

7. 授業時間外学習：講義テキストを事前に読み、序章から終章について、それぞれフィードバックシートに記入してもらいます。通常の授業より、事前の準備課題が多いように感じられるかもしれません。しかしその分、事後のレポートや試験はありません。対話=本番という考え方を共有してください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

きちんと準備して臨めば、きっと楽しい授業となるでしょう。母校での対話的探究を楽しみにしています。死生学カフェと対話については次のURLを参照ください。 <https://www.facebook.com/shiseigakucafeshizuoka/>
<http://hdl.handle.net/10297/00027723>